

神奈川ウォーキング参加 H26-06



日時：平成26年8月20日(水)

集合：小田急座間駅 11:00

コース：座間駅→鎌倉古道→桜田伝説→日枝大神・浄土寺→相模川→ひまわり畑→諏訪明神社→心岩寺→小田急座間駅 13,000歩 約9km (伊藤自宅含め 17,500歩)

参加者：藤崎L【男性班】神谷班長・佐藤伊・勅使河原・小作・奴田・高橋文・小野里・佐藤繁・新谷・伊藤真 計10名

【女性班】藤崎L・平嶋班長・常盤・熊坂・鈴木徳・中村年・伊藤美・福士・高橋紀・高木・落合・横田 計12名 合計22名

天候：快晴猛暑 34℃ 湿度高く午前中無風、午後少し風有り

【小田急座間駅】座間市、神奈川県中央北部にあり、相模川と目久尻川で谷戸を形成し、海拔24～89m。



人口129千人。米軍と自衛隊のキャンプ基地が相模原市と共有している。古東海道があり、宿駅(いさま)の駅がありこれが地名「座間」の発祥とされる。小田急海老名駅の次で急行は止まらない。佐藤繁さんと南武線武蔵溝ノ口駅から登戸駅で小田急線乗り換え、各駅停車で初めて降りた座間駅です。

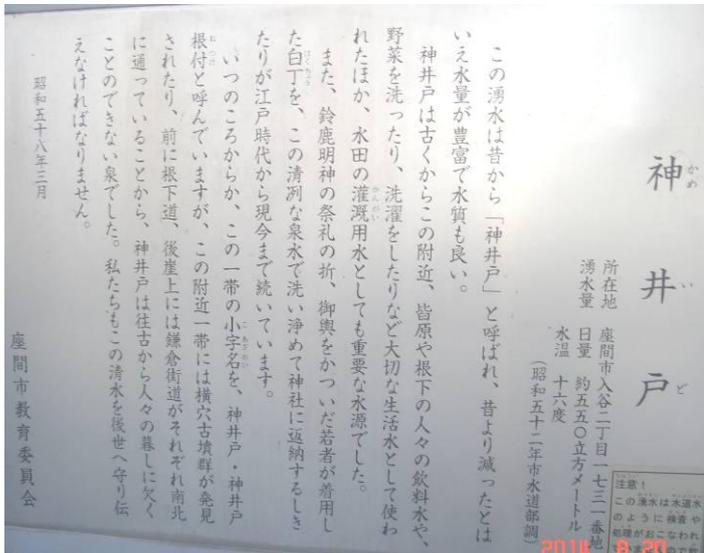
←藤崎Lのお迎えです。判りやすい「座間市散策マップ」を戴きました。

【散策マップ】 座間駅から時計回りに、「ひまわり畑」3会場を散策。祭は8/14（木）～19（火）で終わり



最初の会場はまだ満開で、見晴らし台も有り。ここで集合写真。相模川の上流に向かい「座架依橋」42号道を潜り最北の会場を覗くも花は終わり切られており、真中会場に立ち寄り、諏訪明神社に。

【神井戸】 湧水井戸の傍で佐藤伊さんによるストレッチと藤崎Lコース説明。



お店の駐車場でした



座間高校の傍を歩くと、道傍の草むらに「桜田伝説」の標識あり。藤崎し用意された伝説文を↓熊坂さんが代読。



【桜田伝説】諸説があるようですが、大筋は下記の通りです。
(P Cから転用しました)

昔、座間市にある鈴鹿神社の北に渋谷高間(しぶやたかま)という者がいた。
幼少の時父母に死なれ、成人した後、妻子を持った。
この娘を「小桜姫」(こざくらひめ)という。その母が死んでしまったので後妻をもらい、
後妻との間にも娘、「小柳姫」ができた。

ところが渋谷高間は突然に世を捨て、髪をおろして諸国修行の旅に出てしまった。
そのとき後妻は自分の思い通りにしようと思ひ、家老と相談して小桜姫を夜のうちに絞め殺させ、
「やのふけ」に沈めた。
(やのふけとは「谷の深」と書き、座間高校あたりの深い淵のこと。

妹の小柳姫はこれを聞き知り、「ああ、なんてひどいお母様なの！聞けばやのふけに沈めて
しまったとのこと。このことを父上が知ったら母はもちろん、私をも憎まれることでしょう。」
と嘆き悲しんだ。
そして自分もやのふけに身を投じて死んでしまった。

そのことを知った地元の人たちは怒り、このあたりの相模川に土手を作る時に後妻「まつ」を
人柱(ひとばしら:堤防や橋などの下に村から選ばれた人間を生き埋めにし、その魂の力で
建造物を守ろうとしたもの。)として土手を作った。
その後川は西に流れを変え、その間に村ができた。

この土手の北を古川といひ、そこに牛のようなけだものが住んでいた。
これはまつ生まれ変わりだといひが、死んだ後に川原に埋め、そこに大日堂を建てた。
(西中学校の東側)

その後、渋谷高間は帰ってきたが、後妻のしたことを知り、不憫(ふびん)な子らを嘆いて
供養した後その死んだ場所ご塚をつくって桜と柳を植えた。

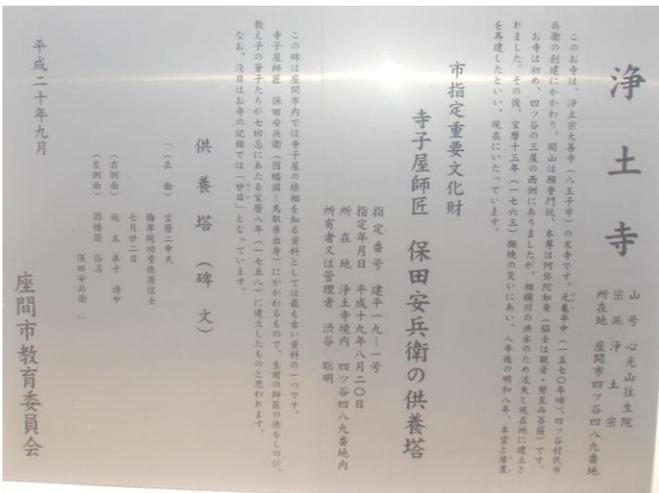


【日枝大神】



木陰で休憩し給水を十分取りましょう！

【浄土寺】



【新田宿・四ツ谷コミュニティセンター】 11:50~12:30 冷房の利いた1Fで椅子付き昼食



緑の稲穂が綺麗な田圃道と相模川堤防道を歩くと、ひまわり畑が見えてきた。



「ひまわりまつり」は昨日で終わりでしたが、見晴らし台がまだ残っていた。大山を望みつつ・・・



【ひまわり】 向日葵 キク科 原産地はアメリカ。太陽を追って動くのは成長が盛んな若い時期だけで、完全に開いた花は東を向いたまま動かない。大きいもので3mぐらいまで伸びる。昼からは花・人物共に逆光です！



ひまわりにはやはり熟女がお似合い！



向日葵はインディアンの食用植物。1510年スペイン人が向日葵の種を持ち帰り、マドリード植物園で栽培開始、その後17世紀フランス、ロシア、日本に伝来。
←花弁が落ちた状態

【由 緒】

鈴鹿明神社は、遠く第二十九代欽明天皇の御代に創祀せられたという。伝説によると、伊勢の鈴鹿郷の神社例祭に神輿が海上を渡御した折、にわか暴風に襲われ、漂流して相模国入海の東峯に漂着した。里人が社を創立してこれを鎮守とし、鈴鹿大明神と崇め奉ったと伝えられている。また天平年間にこの地は鈴鹿王の所領で土甘(とき)郷と言った(正倉院文書)ところから、時人が王の御名を冠して鈴鹿の字名が発祥したとも推察される。

鈴鹿明神社は、往古、東南西方平坦な水田で、その中央一丈余りの高所に、はるばる大洋を望むかの如く鎮座していた。境内は船の形をし、数十の榎の古木が繁茂し、参道中央に銀杏の大木があって、さながら船の帆の様であった。その遠景を人は「舟形の森」「榎の森」と呼んで親しんだが、今はその銀杏もなく、地形も変動して面影はない。しかし神社の地形が前方後円墳にも似るところから、昭和三十九年に社殿の東側草地を発掘したところ、千五百年以前の地下式住居跡(約七坪)が発見され、また境内の榎の古木は最大のもので樹齢九百年といわれ、座間市原始林の一部であるところから、古代の祭祀遺跡埋蔵されている事も想起され、かすかに昔日をしのばせる。

【心岩寺】改装中でした。その傍の石段を登ります。流石KWC藤崎副会長L最後の石段登り大サービスでした。



【小田急座間駅】 14:40 到着 解散 13,000歩 約9km 佐藤伊さんによるクールダウン

【アフターウォーク in 和民海老名店】 15:20~17:20



編集後記：連日日本全国異常気象による豪雨で、広島では土砂崩れ大被害発生。関東は34℃を超える猛暑。その熱い太陽を受けて育つ向日葵、大山を望みながら見て散歩する。まさしく真夏のウォーキング。今日は11時集合の平坦な道ではあるが日陰がなく太陽の真下を歩き、社寺の木陰で給水しながらの休憩の設定。藤崎L・神谷副会長さん下見を含め、猛暑の中ご苦労様でした。有難うございました。

いつものポケ防止用の日記帳「メモと写真」です。失礼な記述や誤記があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。